

心のふるさとについて

私が神戸市から山口市に移り住んだのは、大学の入学式を目前に控えた4月のはじめでした。父の運転する車で神戸から何時間もかけ、山を越えてたどり着いた山口は、本当に遠かったです。

のんびり引っ越しをしたので、すでに都合のいいアパートは残っておらず、見つけたアパートは3畳一間、バスタイムなし。裸電球にカーテンなしの部屋でした。風が強い夜でした。窓ガラスが夜通しカタカタ鳴って、真っ暗な窓の外を見ながら布団にくるまり、とても心細い思いをしたことを覚えています。そうそう、アパートの外にブロック塀で囲まれた小屋があり、その中にあったガス湯沸かし器の横の箱に100円を入れると5分間だけお湯が出る装置がありました。今思えばかなり危険なシャワールームでした。最初はこのリズムに慣れなくて、泡だらけになったところでお湯が止まる、という悲しい経験を何度か味わいました。

こうして知り合いが1人もいない山口での一人ぼっちの暮らしが始まりました。安普請のアパートは隣の部屋との境がベニア板1枚で、真ん中の柱の両側にわずかな隙間があり、そこからのぞくと隣の部屋のテレビが見えました。テレビを持っていなかった私はそれがとてもうらやましかったです。困ったのは、隣の住人がかなり体格のいい学生だったので、私が壁にもたれて座っている時に、壁の裏側に座られると、ギュッと押し返されたことです。部屋の空気がちょっと圧縮されたような感じでした。

こんな孤独な生活が続くと思いきや、幸せなことに、同じアパートに入居していた新入生2人とすぐに仲良くなり、毎晩集まって一緒にお菓子を食べながらお茶を飲む、という未成年ならではのかわいい習慣ができました。(後にこの3人でバンドを組み、7月には大学の七夕祭でステージに立つ、という生意気なことをしています。)

さて、山口で暮らし始めて最初に驚いたことは、これまで当たり前に使っていた言葉が、この地ではとても目立ってしまったことです。幸い同じアパートにいた松山市出身の新入生たちが関西なまりだったので、山口になじむにはまず山口弁を勉強しよう、と夜のお茶会に同じアパートにいた豊浦町出身の講師を迎え、山口の言葉をいろいろと教えてもらうことになりました。私たちは彼のことを「“ちゃ”の大家(たいか)」と呼んでいました。言葉の語尾にやたらと「～ちゃ」を付けるのが彼の癖だったからです。

とりあえず語尾に「ちゃ」を付ければ山口弁になると確信した私たちですが、「大家」から「“ちゃ”を多用するな」とよく叱られました。それでも、この学習会の成果もあって、「やぶつ」「しろしい」「かやす」「せんない」「すじひき」「たわん」「えらい」「やねこい」「おはようございました」…などなど、さっぱり意味の分からなかった言葉の数々を私たちは学ぶことができました。

そんな私も、こちらで暮らす内に、いろんな知り合いも増え、いつかは実家に戻ろうと思いつつ、結局は山口県の教師になってしまいました。関西なまりを極力出さない生活にも慣れ、今やすっかり山口県の住人となっていますが、心の中にあるふるすとは、やっぱり自分が生まれ育った町です。山口を愛してやまない私ですが、自分の魂はきっとふるさとに帰っていきたくっているだろうなあ、とも思います。

二島で育った子どもたちの中には、大きくなってからこの地を離れる子たちもいることでしょう。それでも心のふるすとは、きっといつまでもこの二島であると思います。二島の自然や環境、そして人々…子どもたちを取り巻くもの全てが、子どもたちにとっての「心のふるさと」になっていくのでしょう。

我々教師も、そうした気持ちで子どもたちの日々の教育に努めたいと思います。(辻本紳一朗)

子どもたちの確かな学びのために

☆ 学習指導要領では、子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」のために、

- ① 子どもたちが主体的に学んだり
- ② 多様な他者との対話を通じて自分の考えを広げたり
- ③ 学んだことを使って実生活上の様々な問題の解決に生かすことにより学びを深めたりするような授業づくりの中で、子どもたち一人一人に必要な資質・能力を確実に育成することが求められています。

☆ さて、②についてですが、少人数の本校では、多くの他者と対話するということはなかなか難しいですね。しかし、個を育てることで、「多様な考え方との対話」をすることは可能です。それぞれの子どもがそれぞれの個性を生かして幅広い発想をすることや、少人数だからこそ際立つ個の学びを教師がちゃんと見取り、それらをしっかりと育てることで、二島小ならではの個性豊かな「対話的な学び」が実現すると思います。



☆ それから、③については、地域素材の活用や地域をフィールドにした学びが効果的でしょう。また、子どもを取り巻く環境に教師がアンテナを張ることで、子どもが主体的に自分の身の回りの生活に関心を持ち、学んだことを生かして課題解決を図ることにつながっていくと思います。国語で培われる言語力はもちろんのこと、「生活科」や「総合的な学習の時間」をはじめ、全ての教科・領域での学びが実生活につながりますね。「図工」「音楽」「体育」「道徳」・・・ちょっと視点を広げてみると、学校で実践されている教育のほとんどは、実生活で生かされています。これを子どもたちに意識させることが大事だと思うのです。

二島小では、そうした視点をもって子どもたちを育てていきたいと思っています。おうちでも、子どもたちの学びにつながるような場面がありましたら、ぜひ取り上げ、お子さんと話していただくと子どもたちの学びがさらに深まると思います。よろしくお願いいたします。



7月の行事予定

- | | |
|----------------------------------|---------------------|
| 2 (木) 《かぞくみんなで健康デー》
不審者対応避難訓練 | 28 (火) 月末大掃除 |
| 3 (金) 歯科検診 ALT | 29 (水) 個人懇談① |
| 4 (土) サタデープラン発会式9時～ | 30 (木) 個人懇談② |
| 7 (火) 集金日 | 31 (金) 終業式・給食終了 ALT |
| 9 (木) 代表委員会・びっくん | |
| 10 (金) 耳鼻科検診 ALT | |
| 12 (日) 《かぞくみんなで健康デー》 | |
| 17 (金) ALT | |
| 22 (水) 《かぞくみんなで健康デー》 | |
| 23 (土) 祝・海の日 びっくん | |
| 24 (金) 祝・スポーツの日 | |



干潟プロジェクト 5年生